



フランシスコ教皇の来日（上）

い
のちと平和を守るために

日本各地で大歓迎を受けたフランシスコ教皇。彼はアルゼンチン出身で「イエズス会」からの初めての教皇である。

きるように譲り、幟町の世界平和記念聖堂での「パブリックビューイング」に参加した。

今回は一番嬉しかったのは、私が「祈りの人

被爆地長崎・広島をはじめ、東京では天皇陛下、安倍総理大臣、東京ドームでの約5万人参加のミサ、上智大学で大学生との対話を行うなど、82歳の高齢にとつては極めて過密なスケジュールだった。その中で、改めて核兵器廃絶を強く訴えられた。

私たちは下松カトリック教会の信徒は、広島平和公園での対話集会に修学旅行生が参加で

れているカルメリットの気持ちを思うと私まで嬉しかった。私たちはシスターと教皇との



十字架のフランスコ教皇

親と2人の
この原爆で亡
くなりま
した。と
ても苦し
みました。
私たちも
核のない
世界平和
のために
祈っていま
す」

教皇は
このカード

謁見の様子を世界平和記念聖堂内の大型スクリーン（写真）に映し出される画面で見た。

山口カルメル会のシスターが広島原爆の被爆体験記をスペイン語に翻訳したものを教皇に直接手渡される。

A woman with glasses and a white headscarf is holding a large white protest sign. The sign has Spanish text written on it. In the background, a Japanese flag is visible. The text on the sign reads: "Se perdieron a mi país mis dos hermanas en la bomba atómica de Hiroshima, Me volví muda. Estoy pidiendo nada por la paz del mundo. Que pase el tiempo a la energía y armas nucleares. Que las bombas de Japón, estamos pidiendo siempre mucho por ti."

スペイン語に翻訳された原爆体験記を
フランシスコ教皇に見せる



広島原爆体験記を書いたシスター・長

一番印象に残つたのはその深い眼差しと同時に注意深い眼差しでごろんになるその「眼差し」であつた。

そこには全世界の苦しむ人々、見捨てられた人々を1人も見逃さずに見つめる眼差しがあった。

今から38年前に来日されたヨハネ・パウロ2世が広島で「戦争は人間のしわざです」と言われた言葉を今もはつきり覚えている。今回もフランシスコ教皇の言葉がただ単に言葉だけに終わることなく、自分の日々の生活の中に少しでも具現（ぐげん）させていかねばと強く思った。

の文字を上から下まで
ずーっと読み、そのあ
と顔をあげて慈悲深い
眼差しでシスターに手
を差し伸ばし、頭を撫
でられて祝福された。

ねばと強く思った。
改めて強行スケ
ジュールにもかかわら
ず来日されたフランシ
スコ教皇に御礼申し上
げたい。



「パブリックビューイング」
 幟町の世界平和記念聖堂で行われた